

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*** 15 mm幅のクロノグラフ記録テープ発見 (レプソルド子午儀室床下探検)**

アーカイブ新聞第988号に「クロノグラフ収蔵」という記事を書いた。その中にレプソルド子午儀室(現子午儀資料館)床下から持ち出したクロノグラフの記録テープ幅が25 mm、クロノグラフのテープの通る溝幅が13 mm、そして電磁ペンが2本なのに3本の記録があるという不都合があると書いた。筆者がアーカイブの仕事をはじめたころ、レプソルド子午儀室の探検が行われ、国立天文台ニュースにも掲載された。そのとき、クロノグラフの記録テープがたくさんあったことを覚えていた(写真1)ので、クロノグラフ収蔵の記事を書く



写真1 床下の大量の記録テープ

ために2月22日、この床下に潜り込んだのだが、クロノグラフの記録テープに25 mm幅のものと13 mm幅のものがあるとは思ってもみなかったので、取り出しやすいものを持ち出したのであった。そのテープが25 mm幅のテープであった。

そこで、2月24日朝、出勤一番で再びレプソルド子午儀室の床下に潜り込んだ。13 mm幅の記録テープ探索のためであった。すると確かに25 mm幅より細いテープが見つかった。そして、このテープには2本の電磁ペンの線が記録されていた(写真2)。

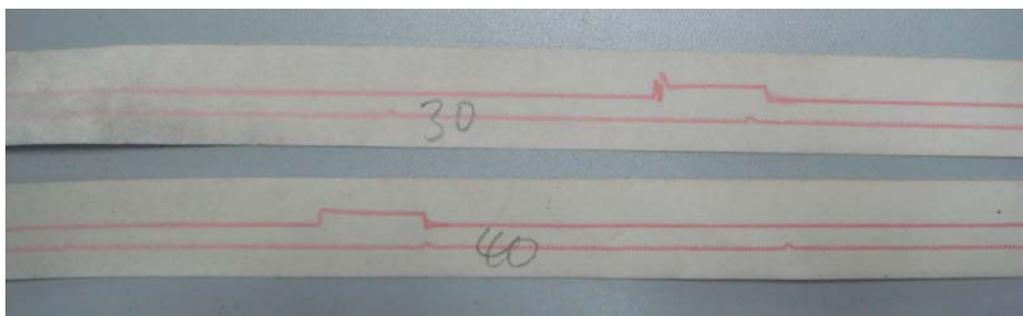


写真2 電磁ペン2本の記録があるテープ

テープは2種類で、22日に持ち出した25mm幅より細いのがあれば当然13mm幅のテープだと思っていた。さあ、目的のテープはあったと部屋に持ち帰った。テープ幅を計ると、なんと15mm幅ではないか。ほかにもっと細いテープがあるのかと、また、再びレプソルド子午儀室階下に潜り、注意深くもっと細いテープを探したが、25mm幅と15mm幅のテープ以外のテープは見つからなかった。クロノグラフの溝の幅を図り間違えたかと思ったが、計り直してもやはり13mmであり、15mmテープは入らない。

アーカイブ新聞第988号の記事を読んだ古在先生から、「クロノグラフは1950年代、広瀬さんの掩蔽同時観測で使っていました、車で移動する時も誰か一人が責任者として面倒をみていました。」というコメントをいただいた。

やはり、クロノグラフはいくつもあったに違いない。今回収蔵したクロノグラフはレプソルド子午儀室で使っていたものではなかったのかもしれない。

写真3が、25mm幅のテープと15mm幅のテープを並べて撮った写真である。

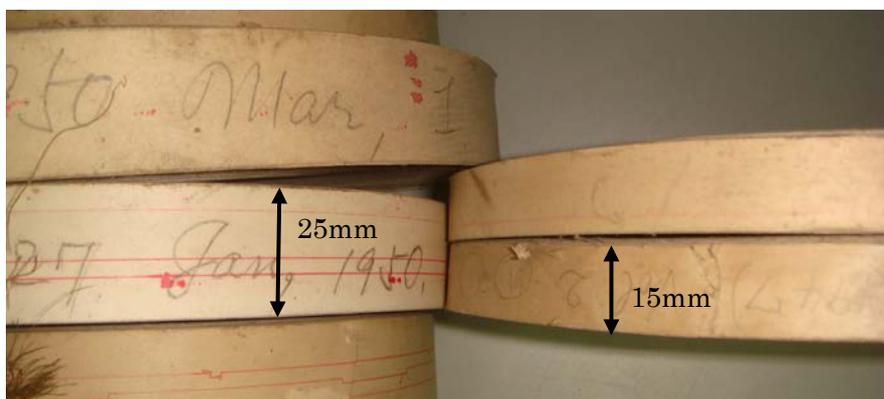


写真3 左が25mm、右が15mm幅テープ

テープ幅をスケールで計ったのが写真4、5である。

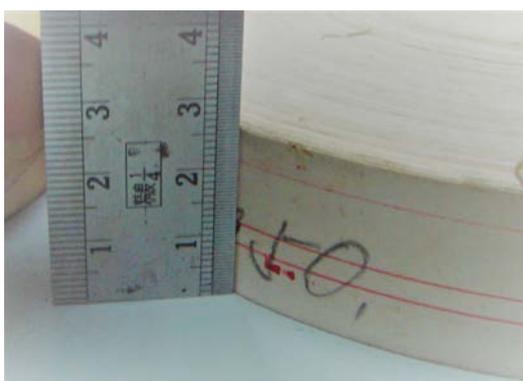


写真4 25mm幅のテープ



写真5 15mm幅のテープ

今回は、少し大量のクロノグラフテープを持ち出した。写真6が今回持ち出した15mm幅テープである。



写真6 今回持ち出した15mm幅テープ

アーカイブ新聞第988号の写真17に写った箱の中にめぼしいものがあるかもしれないと書いたが、残念ながらこの箱の中はガラクタのみであった(写真7)。しかしながら、今回はレプソルド子午儀室床下を這いずり回り、よく眺めてみた。そして、テープではない記録紙も発見し持ち出した。この記録紙については次号で報告する。



写真7 木箱の中はガラクタばかり

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp